

教育委員会定例会議事日程

平成19年12月20日

日程第1 議案第21号

平成20年度全国学力・学習状況調査への参加について（学校教育課）

議案第 2 1 号

平成 2 0 年度全国学力・学習状況調査への参加について

平成 2 0 年度の全国学力・学習状況調査に参加することについて、小田原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則（平成 1 0 年小田原市教育委員会規則第 4 号）第 3 条第 1 8 号に基づき、議決を求める。

平成 1 9 年 1 2 月 2 0 日提出

小田原市教育委員会
教育長 青木 秀夫

平成20年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領

1. 調査の目的

- (1) 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の名称

「平成20年度全国学力・学習状況調査」（以下「本調査」という。）

3. 調査の対象とする児童生徒

- (1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。
 - ア 小学校調査
小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年
 - イ 中学校調査
中学校第3学年，中等教育学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年
- (2) 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち，調査の対象となる教科について，以下に該当する児童生徒は，調査の対象としないことを原則とする。
 - ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
 - イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

4. 調査事項

- (1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語・算数とし、中学校調査は、国語・数学とすること。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとすること。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

(ウ) 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入すること。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施すること。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

5. 調査実施日等

(1) 児童生徒に対する調査

ア 調査実施日は、平成20年4月22日火曜日とすること。

(ア) 小学校調査

① 教科に関する調査は、国語・算数の主として「知識」に関する問題は合わせて1単位時間、国語・算数の主として「活用」に関する問題はそれぞれ1単位時間とすること。

② 児童質問紙調査は、各学校の状況に応じて適切に実施すること。

(イ) 中学校調査

① 教科に関する調査は、国語・数学の主として「知識」に関する問題はそれぞれ1単位時間、国語・数学の主として「活用」に関する問題はそれぞれ1単位時間とすること。

② 生徒質問紙調査は、各学校の状況に応じて適切に実施すること。

イ 平成21年度における調査の実施予定日は、平成21年4月28日火曜日とす

ること。

- (2) 学校に対する質問紙調査
平成20年4月に実施する。

- (3) 調査実施に関するスケジュールの予定
別紙1のとおりとする。

6. 調査の実施体制

本調査の実施体制は、以下のとおりとする（公立学校、私立学校、国立学校における調査の実施系統図は、それぞれ、別紙2、別紙3、別紙4）。

- (1) 本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者である都道府県教育委員会、市町村教育委員会、学校法人、国立大学法人等（以下「参加主体」という。）の協力を得て実施する。なお、事業の一部（調査問題の配送・回収、調査結果の採点・集計、教育委員会、学校等への提供作業等）は、文部科学省が民間機関に委託して実施する。
- (2) 都道府県教育委員会は、域内の市町村教育委員会に対して指導・助言・連絡等をするなど調査に協力する。また、自らが設置管理する調査に関係する学校に対して指示・指導・助言等をするなどにより調査にあたる。
- (3) 都道府県知事は、私立学校の所轄庁として調査に協力する。
- (4) 市町村教育委員会、学校法人、国立大学法人等は、学校の設置管理者として調査に協力し、所管の学校に対して指示・指導・助言等をするなどにより調査にあたる。
- (5) 学校は、校長を調査責任者として、設置管理者である市町村教育委員会等の指示・指導・助言等に基づき調査にあたる。

7. 調査結果の取扱い

- (1) 調査結果の示し方

小学校調査及び中学校調査のそれぞれについて、以下の事項等を示すこととする。

- ア 教科に関する調査の結果について、国語、算数・数学のそれぞれ、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題に分けた四つの区分ごとの平均正答数、平均正答率、中央値、最頻値、標準偏差等

- イ 都道府県・市町村・学校・児童生徒の学力に関する分布の形状等が分かるグラフ
- ウ 各教科の設問ごとの正答率
- エ 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果について、
 - (ア) 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の回答状況
 - (イ) 児童生徒質問紙調査の回答状況と教科に関する調査の平均正答率との相関関係の分析
 - (ウ) 学校質問紙調査の回答状況と教科に関する調査の平均正答率との相関関係の分析

(2) 調査結果の公表

文部科学省は、以下のア～ウについて、(1)に掲げる調査結果を公表する。

- ア 国全体の状況及び国・公・私立学校別の状況
- イ 都道府県ごとの公立学校全体の状況
- ウ 地域の規模等に応じたまとまり（大都市（政令指定都市及び東京23区）、中核市、その他の市、町村、または、へき地）における公立学校全体の状況

(3) 調査結果の提供

各教育委員会、学校等に対して、以下の調査結果を提供し、その内容は別紙5のとおりとする。

- ア 文部科学省は、以下の調査結果を提供すること。
 - (ア) 都道府県教育委員会に対しては、その設置管理する各学校の状況に関する調査結果、当該都道府県における公立学校全体の状況、域内の各市町村における公立学校全体の状況及び市町村が設置する各学校全体の状況に関する調査結果
 - (イ) 市町村教育委員会に対しては、当該市町村における公立学校全体の状況及びその設置管理する各学校の状況に関する調査結果
 - (ウ) 学校に対しては、当該学校全体の状況、各学級及び各児童生徒に関する調査結果
- イ 学校は、各児童生徒に対して、当該児童生徒にかかる調査結果を提供すること。

(4) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮して、適切に取り扱うものとする。具体的に配慮すべき点は、以下のとおりとする。

- ア 調査結果の公表にあたっては、本調査の結果が学力の特定の一部であることなどを明示すること。また、数値の公表にあたっては、それにより示される調査結果についての読み取り方を併せて示すこと。
- イ 本調査の実施主体が国であることや、市町村が基本的な参加主体であることなどにかんがみて、都道府県教育委員会は、域内の市町村及び学校の状況について個々の市町村名・学校名を明らかにした公表は行わないこと。
また、市町村教育委員会は、域内の学校の状況について個々の学校名を明らかにした公表は行わないこと。
- ウ 市町村教育委員会が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすため、当該市町村における公立学校全体の結果を公表することについては、それぞれの判断にゆだねること。また、学校が、自校の結果を公表することについては、それぞれの判断にゆだねること。
ただし、本調査により測定できる学力は特定の一部であること、学校の教育活動の取組の状況や調査結果の分析を踏まえた今後の改善方策等を併せて示すなど、序列化につながらない取組が必要と考えられること。
- エ 都道府県教育委員会が、例えば、教育事務所単位で調査結果を公表するなど個々の市町村名が明らかとならない方法で公表することは可能であること。
また、各教育委員会が独自に実施する学力調査の公表の取扱いについては、もとよりそれぞれの各教育委員会の判断にゆだねられること。

8. 調査実施にあたっての相談体制

- (1) 学校の設置管理者である市町村教育委員会等においては、所管の学校からの相談に対応するなど適切な指導・助言を行う。
- (2) 調査実施にあたっての市町村教育委員会、学校等からの問い合わせや調査問題の配送・回収状況の把握・確認等に対応するため、文部科学省が民間機関に委託して、コールセンターを設置する。

9. 留意事項

- (1) 各教育委員会、学校等における実施体制等

本調査を実施するにあたり、以下の体制を整備することとする。

- ア 各教育委員会等においては、調査責任者及び担当者を指名するとともに、所管の学校からの相談に対応するなど、適切に実施体制を整備すること。
- イ 各学校においては、調査責任者及び担当者を指名し、適切に実施体制を整備す

ること。

- ウ 教育委員会、学校等においては、本調査の実施にあたって、調査の目的及び内容を児童生徒、保護者等の関係者に周知すること。
- エ 各教育委員会、学校等において、調査問題等の調査に関して知り得た秘密については、その保持を徹底すること。

(2) 個人情報保護

- ア 文部科学省及び文部科学省が委託した民間機関は、解答用紙について、児童生徒の氏名を取得しない形式を用いることとする。
- イ 各教育委員会、学校等においては、調査に関して知り得た個人情報について、それぞれが遵守すべき個人情報保護関係法令又は地方公共団体の定める条例に基づき、適切に取り扱うこと。

(3) 調査日程の変更等

本調査は、各教育委員会、学校等の協力を得て実施するものであるが、調査を実施できないやむを得ない事情がある場合は、教育委員会、学校等の判断により、調査実施日以降に別途調査することを可能とする。この場合、全体の集計からは除外することとするが、教育委員会、学校等の求めに応じて、採点及び調査結果の提供を行うこととする。

(4) 教育課程上の位置付け

教育課程上の位置付けについては、教育委員会及び学校の判断により、以下のとおり取り扱うことを可能とする。

- ア 教科に関する調査については、以下のとおり、当該教科の授業時数の一部として取り扱うことを可能とすること。
 - ・小学校調査 国語及び算数：それぞれ 1.5 単位時間相当
 - ・中学校調査 国語及び数学：それぞれ 2 単位時間相当
- イ 児童生徒質問紙調査については、特別活動（学級活動）の一部として取り扱うことを可能とすること。

(5) 障害のある児童生徒に対する配慮

障害のある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障害の種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字・拡大文字問題用紙の使用、別室の設定などの配慮を可能とする。

(6) 日本語指導が必要な児童生徒に対する配慮

日本語指導が必要な児童生徒については、原則として、他の児童生徒と同様の授業を受けている児童生徒について、調査の対象とする。ただし、例えば、国語、算数・数学の時間に取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。なお、調査を行うにあたっては、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題用紙の使用などの配慮を可能とする。

(7) 調査問題等の公開

文部科学省は、本調査実施後、速やかに、調査問題、正答例、問題趣旨、解答類型を公開することとする。

(8) 調査により得られる調査結果の取扱い

ア 文部科学省は、調査結果のうち、公表する内容を除くものについて、以下のような考え方で対応すること。

- ・これが一般に公開されることになると、序列化や過度な競争が生じるおそれや参加主体からの協力及び国民的な理解が得られなくなるなど正確な情報が得られない可能性が高くなり、全国的な状況を把握できなくなるなど調査の適正な遂行に支障を及ぼすおそれがあると考えられるため、行政機関の保有する情報の公開に関する法律第5条第6号の規定を根拠として、同法における不開示情報として取り扱うこととする。

イ 教育委員会等においても、提供される調査結果のうち、文部科学省が公表する内容を除く調査結果について、上記を参考に、それぞれの地方公共団体が定める情報公開条例に基づく同様の規定を根拠として、情報の開示により調査の適正な遂行に支障を及ぼすことのないよう、適切に対応する必要があること。

(9) 調査実施マニュアルの作成・配布

本調査の具体的な実施方法等については、平成20年2月に作成・配布を予定している調査実施マニュアルで示す予定である。調査実施マニュアルの主な記載項目は、以下のとおりとする。

- ア 調査の日程、時間割
- イ 調査の実施体制
- ウ 調査実施時における具体的な作業手順
- エ 特別な配慮が必要な児童生徒への対応
- オ 不測の事態への対応

調査実施に関するスケジュールの予定

	文部科学省等(※1)	都道府県等(※2)	設置管理者	学校
19年 11月	実施要領の通知	実施要領の受領・周知	実施要領の受領・周知	実施要領の受領・周知
	調査参加の意向照会	参加の意向を回答	参加の意向を回答	
	問い合わせ対応 連絡調整等	問い合わせ、連絡調整	問い合わせ、連絡調整	問い合わせ 連絡調整等
20年 2月	調査実施 マニュアルの 作成・配付	調査実施マニュアル の受領・周知	調査実施マニュアル の受領・周知	調査実施マニュアル の受領
	調査に関する 資材等の配送			調査に関する 資材等の受領・保管
本調査の実施(平成20年4月22日(火))				
9月	調査に関する 資材等の回収			調査に関する 資材等の回収
	調査結果の 公表及び提供	調査結果の受領	調査結果の受領	調査結果の受領
12月頃	調査報告書 の作成	調査報告書の受領	調査報告書の受領	調査報告書の受領

※1 文部科学省等には、国立教育政策研究所及び文部科学省が委託した民間機関を含む

※2 都道府県等とは、国立学校の場合は文部科学省、公立学校の場合は都道府県教育委員会、私立学校の場合は都道府県知事部局のこと

平成19年度全国学力・学習状況調査 調査結果概要(国・公・私立学校)

小学校国語

国語A(知識)について、児童の平均正答率が81.7%であり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

国語B(活用)について、児童の平均正答率が63.0%であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

課題等(…相当数の児童ができている点 …課題のある点)

話すこと・聞くこと

(A)話し方に関する知識(聞き手の反応を確かめながら話すこと)や聞き方に関する知識(要点をメモに取りながら聞くこと)の理解に課題がある。

書くこと

(A,B)文章の中から必要な言葉を選んで内容を整理すること、体験等に基づいた自分の考えを書くことは、相当数の児童ができている。

(B)説明文で述べている事柄の理由を要約すること、資料から必要な事柄を取り出して与えられた条件に即して書き換えることに課題がある。

読むこと

(A)物語の登場人物の関係を押さえて心情を把握することに課題がある。

(B)文章の内容と資料の情報とを関係付けて正しく読み取ることに課題がある。

(B)二つの文章の共通点を評価し、自分の考えをまとめることに課題がある。

言語事項

(A)接続語の使い方、指示語が示す内容については、相当数の児童が理解している。

(A)文の構成を理解して、1文を2文に書き換えることに課題がある。

指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

聞き手の反応を見て調整しながら話したり、話の要点のメモを取りながら聞いたりするなどの具体的な言語活動を取り入れ、これを通じて、話すこと・聞くことに関する知識・技能を定着させる指導の充実を図る。

書くこと

文章を要約したり、字数や様式などの与えられた条件に即して書き換えたりする言語活動を多く取り入れるなどの指導の充実を図る。

読むこと

登場人物相互の関係を押さえながら、登場人物の心情や性格、考え方などをとらえるようにする言語活動の充実を図る。

文章とグラフ・図などを含む題材を取り上げ、文章の内容と資料の情報とを関係付けながら的確に読む言語活動の充実を図る。

複数の文章や資料を取り上げ、観点を設定して比べて読む言語活動の充実を図る。

言語事項

文の構成についての理解の定着を図るために、2つの内容を1文にまとめたり、1文を内容ごとに分けて書き換えたりする言語活動の充実を図る。

小学校算数

算数A（知識）について、児童の平均正答率が82.1%であり、相当数の児童が今回出題している学習内容をおおむね理解していると考えられる。

算数B（活用）について、児童の平均正答率が63.6%であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

課題等（ …相当数の児童ができている点 …課題のある点）

数と計算

(A) 整数、小数、分数の四則計算は、相当数の児童ができている。

(A) 数の意味と大きさの理解に課題がある。

(A) 問題文から式を考えることに課題がある。

(B) 計算の工夫を理解し、その計算方法を説明することに課題がある。

量と測定

(B) 地図から複数の図形を見だし、必要な情報を取り出して面積を比較し、説明することに課題がある。

図形

(A) 三角形や平行四辺形の性質を理解し、角の大きさを求めたり作図したりすることは、相当数の児童ができている。

数量関係

(A) 計算の順序についての決まりを理解して計算することに課題がある。

(B) 棒グラフから数量の大小や変化の様子をよみとることは、相当数の児童ができている。

(B) 百分率を用いて問題を解決することに課題がある。

(B) 式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠を明確にして説明することに課題がある。

指導改善のポイント

数と計算

様々な数を数直線上に表す活動など、数の意味や大きさを調べたり表したりして理解する活動の充実を図る。

簡単な数に置き換えて式を考える活動など、工夫して立式する活動の充実を図る。

数を多面的に見て（ $100 = 25 \times 4$ など）計算の工夫を考える活動の充実を図る。

量と測定

情報過多の場面や課題から、問題解決のために必要な情報を選択して考える活動の充実を図る。

数量関係

加減や乗除を用いる具体的な場面と式の表現とを結び付けて考える活動などを通して、計算の順序を意識できるようにする指導を重視する。

日常生活で百分率が用いられる場面について考える活動などを通して、百分率の意味の理解を深める指導を重視する。

式の形に着目して計算結果を考え、根拠を明らかにして説明する活動の充実を図る。

中学校国語

国語A（知識）について、生徒の平均正答率が82.2%であり、相当数の生徒が今回出題している学習内容をおおむね身に付けていると考えられる。

国語B（活用）について、生徒の平均正答率が72.0%であり、知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

課題等（・・・相当数の児童ができている点・・・課題のある点）

話すこと・聞くこと

(A) 聞き手を意識して使用する語句を工夫することや不足している情報を適切な表現で話し手に確かめることは、相当数の生徒ができている。

書くこと

(A、B) グラフから必要な情報を読み取って記述すること、文学作品の内容や構成について自分の考えを書くことについては、相当数の生徒ができている。

(A) 手紙の後付けの書き方についての理解に課題がある。

(B) 複数の資料から得た情報を整理して、伝えたい事柄や自分の考えを明確にして書くことに課題がある。

読むこと

(A) 情景描写を書き手の工夫に着目して的確に読み取ることに課題がある。

(B) 文章全体の内容や表現の特徴についておおまかに読み取ることは、相当数の生徒ができている。

(B) 文章の展開や心情の変化に着目して、工夫しながら朗読することに課題がある。

言語事項

(A) 語句の意味を理解して文脈の中で正しく使うこと、文の成分の照応に注意して書くこと、生活の場面で敬語を適切に使うことは、相当数の生徒ができている。

(A) 文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。

指導改善のポイント

話すこと・聞くこと

目的に沿って話したり、適切に聞き取ったりする力を身に付けるために、具体的な場面を設定した実践的な言語活動を今後も継続して重視する。

書くこと

手紙文の書き方など基礎的・基本的な学習内容を確実に習得させる指導の充実を図る。

根拠を明らかにして書く力や、論理の展開の仕方などを工夫して書く力、情報を目的に応じて活用する力を高めるために、収集した情報をよりの確に整理して自分の考えを書く言語活動の充実を図る。

読むこと

文学的な文章の描写や表現に注意して内容をとらえる言語活動の充実を図る。

社会生活に役立つ読む能力を身に付けるために、様々な文章の内容や構成、表現に注意しながら的確に読み取ったり、情報を活用したりする言語活動を工夫する。

言語事項

使用頻度の低い漢字の正しい読み書きについての指導を工夫する。

中学校数学

数学A（知識）について、生徒の平均正答率が72.8%であり、基礎的・基本的な知識・技能を更に身に付けさせる必要がある。

数学B（活用）について、生徒の平均正答率が61.2%であり、知識・技能を活用する力に課題がある。

課題等（ …相当数の児童ができている点 …課題のある点）

数と式

(A) 指数を含む計算、式の値を求めること、一元一次方程式を解くことは、相当数の生徒ができている。

- (A) 文字式が表す意味の理解や方程式における移項の意味の理解に課題がある。
- (B) 結論が成り立つことを説明するために必要な条件を示すことに課題がある。
- (B) 条件に合う式を見だし、文字式を用いて表し説明することに課題がある。

図形

- (A) 基本的な平面図形の性質の理解については、相当数の生徒ができている。
- (A) 円柱と円錐の体積の関係の理解に課題がある。

すい

- (B) 仮定と結論の意味を理解して証明の構想を立てることに課題がある。

数量関係

- (A) 反比例の表を完成させることに課題がある。
- (A) 確率の意味の理解に課題がある。
- (B) 説明すべき事柄を正しく選択し判断することは、相当数の生徒ができている。
- (B) 数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして数学的に表現することに課題がある。

指導改善のポイント

数と式

文字式が表す意味を具体的な事象に即して理解する活動や、移項による解き方と等式の性質を使った解き方とを対比するなど移項の意味を理解する活動を重視する。

結論が成り立つ理由を説明するためには何が必要かを逆向きに考えるなどして、見通しをもって説明を構想する活動の充実を図る。

見通しをもって試行を繰り返し、条件に合う式をつくる活動の充実を図る。

図形

実験や実測を通して、実感を伴って図形の性質を理解する活動を重視する。

証明の誤りを振り返り、その評価に基づいて証明を改善する活動の充実を図る。

数量関係

反比例について、比例と対比したり、変化と対応の両側面から考えたりするなど、その意味と性質を理解する活動を重視する。

確率を基にして事象を振り返るなど、確率の意味を理解する活動を重視する。

数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりして、数学的な表現や処理を基に特徴を明らかにし、分かりやすく説明する活動の充実を図る。

児童生徒質問紙

< 基本的な生活習慣 >

朝食を毎日食べる児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

学校のきまり・規則を守っている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。